

## 恐竜博物館(1/2)

# 世界に羽ばたく恐竜博物館

所在地	勝山市村岡町寺尾51-11		
設置年月日	平成12年7月14日		
施設の種別	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	恐竜を中心とする古生物および地球の歴史に関する資料の収集、保管、展示、研究等を行い、もって県民の文化の向上に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延15,086㎡ 展示室・講堂・ダイナロポ・ダイノシアター・化石クリーニング室・恐竜骨格30体以上		
職員数	職員15人、非常勤嘱託3人、アルバイト5人、計23人		

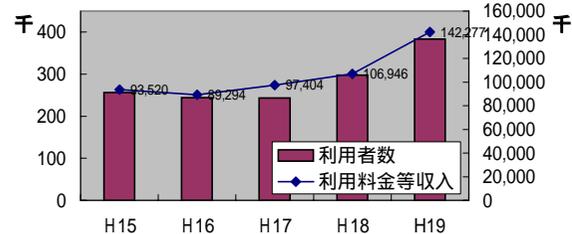
### 利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数(人)	256,663	243,976	243,006	297,904	383,423

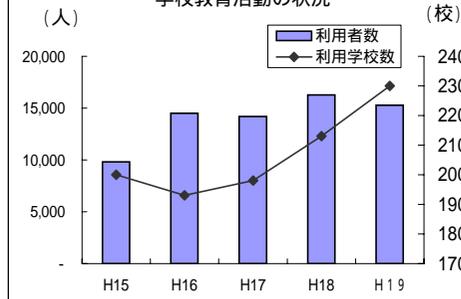
### 利用者負担(利用料金)等

入館料	大人	500円
	高校・大学生	400円
	小・中学生	250円

施設利用者等の推移



学校教育活動の状況



### 利用状況の推移

平成13年度から平成17年度の入館者は、毎年度約25万人で推移してまいりました。平成18年度は、特別展「恐竜以前～エディアカラの不思議な生き物たち～」では前年度を上回る入館実績(約86千人)となったほか、県内外でのPRや企業との連携に取り組んだ結果、年間来館者数は対前年比約23%増の約298千人となりました。さらに、平成19年度は、特別展「クジラが陸を歩いていた頃～恐竜絶滅後の王者～」が約127千人の入館実績となったほか、第三次恐竜化石発掘調査が開始され、その成果がタイムリーに公表できたことや積極的に県内外でのPRや企業との連携をさらに進めた結果、年間来館者は、対前年比約29%増の約383千人と過去最高となりました。

### 施設の特徴

県が勝山市内で実施した恐竜化石発掘調査では、数多くの標本が発見され、当時は多くの恐竜の群れが生活していたことが明らかになりました。

恐竜博物館は、そのような恐竜に関する資料を展示した国内最大級の博物館であり、リアルで魅力的な館内の展示を通じて、子どもから大人までの幅広い世代に夢とロマンを提供しています。

また、県内外から多くの入館者が訪れ地元勝山市および本県の観光振興やイメージアップに貢献しています。

### 教育普及事業

生涯教育への意欲の高まりや、大人から子どもまでのあらゆる層の多彩なニーズに対応できるよう、恐竜に関する最新の研究や古生物学の知識をわかりやすく普及する各種セミナーや講座を開催しています。

### 恐竜ブランド発信事業

福井が誇る「福井県立恐竜博物館」および「フクイラトル」などの研究成果を本県のブランドとして広く全国に発信するため、海外との連携や効果的なPR活動を行っています。

### 平成19年度の特色について

オタゴ大学(ニュージーランド)と協力し特別展「クジラが陸を歩いていた頃～恐竜絶滅後の王者～」展を夏休み期間中に8日間開催しました。

また、子どもから大人までの幅広い世代のニーズに応じた、セミナー、自然教室等わかりやすい古生物学の教育普及事業を40回開催し、児童生徒、親子等約1,300名が受講しました。

広報活動としては、まず、名古屋、幕張メッセで行われた「恐竜大陸」や、サンリオピューロランド(東京都八王子市)、イクスピアリ朝市(千葉県舞浜市)等に標本を積極的に貸出するなど、PR活動を進めました。

また、県内外の学校を訪問し、恐竜博物館の利用を呼びかけるとともに、県内15校、県外3校において出前授業を実施しました。

さらに、企業との連携を進め、ローソンでの入館券販売を開始するとともに、ジャパンエナジーと協働で首都圏サービスステーション(127店舗)において、塗り絵セットの提供を行いました。

次に、「魅力の創出」にも重点を置き、県内企業と連携して、恐竜博物館と恐竜化石発掘現場をセットにしたツアーや館内音声ガイドシステムの導入等を企画し、夏休みの親子連れを中心に、12,750名の誘客につなげました。

また、小学校低学年をメインターゲットとする子ども向けホームページ「恐竜むらへようこそ!」を開設しました。

さらに、旧盆期間中(8月14日・15日)には、帰省した県民の利便性向上および恐竜ブランドの浸透を図るため、「ナイトミュージアム(恐竜博物館納涼の夕べ)」を開催、夜9時までの開館時間延長を実施し、約3100人の誘客につなげました。

研究面では、7月から8月にかけて49日間、勝山市北谷町杉山地係において第三次恐竜化石発掘調査を行い、大型竜脚類恐竜化石(上腕骨、大腿骨等)等、約1,200点の脊椎動物化石を発掘しました。

また、恐竜博物館の建設目的の一つである「国際的視野にたった恐竜化石研究の拠点となる施設」を目指し、中国をはじめとするアジア地域の恐竜化石を研究している世界各国の研究者を招いた「国際恐竜シンポジウム2008」を開催し、約400名の参加者がありました。

さらに、国際的な恐竜研究の拠点化と恐竜研究ネットワークの形成を目指し、タイや中国と共同で恐竜化石発掘調査を行うとともに、自貢恐竜博物館(中国)と姉妹提携を締結しました。

そのほか、NPO法人福井恐竜博物館後援会と連携し、大阪市、富山市など県外4か所のショッピング

### 事業実績

# 恐竜博物館(2/2)

## 行政コスト計算書(平成19年度) (単位:千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	161,544	16.2%	103.8%
	退職給与引当金繰入	180	0.0%	-
	計	161,364	16.2%	93.6%
	物件費	421,899	42.4%	127.9%
	維持補修費	5,201	0.5%	45.5%
	減価償却費	256,018	25.7%	100.3%
	計	683,118	68.6%	114.5%
	公債費(利子)	145,596	14.6%	92.5%
	その他	5,808	0.6%	252.4%
	計	151,404	15.2%	94.8%
合計		995,886	100.0%	107.2%
収入	利用料等収入	137,750	13.8%	132.9%
	その他収入	34,648	3.5%	176.5%
	一般財源	823,488	82.7%	102.2%

## バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位:千円)

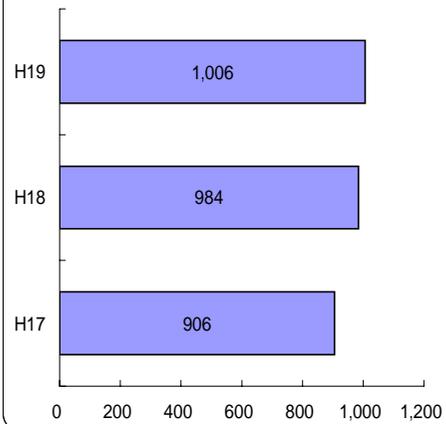
借方			貸方		
		前年比			前年比
有形固定資産	12,311,035	98.5%	固定負債	7,210,060	91.5%
うち建物	10,884,694	97.8%	うち起債残高	7,090,915	91.4%
うち化石標本	1,292,637	101.6%	うち退職手当引当金	119,145	99.9%
投資等	0	-	流動負債	670,342	99.9%
流動資産	0	-	正味資産	4,430,633	112.2%
計	12,311,035	98.5%	計	12,311,035	98.5%

## 主な指標 (単位: %、円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	15,042	15,333	98.1
県民1人あたり将来負担額	8,809	9,665	91.1
世代間負担率	36.0	31.6	113.9

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>施設の設置が平成12年度と新しいため、建物が資産の9割を占めるほか、建設に伴うコスト負担(減価償却費や公債費)の割合が高くなっています。</p> <p>また、施設の建設には約112億円の起債借入を行っており、県民1人あたり将来負担額が大きくなっています。</p> <p>収入面では、入館者数の増加により利用料等収入が前年比32.8%増加しました。また、特別展の開催に際し助成金があったため、その他収入が前年比76.5%増加しました。</p> <p>支出面では、情報システムの更新や第三次恐竜化石発掘調査の実施、国際恐竜シンポジウムの開催、海外恐竜化石調査共同研究の実施等により、物件費が前年比29.8%増加しました。この結果、県民1人あたりのコスト負担は、前年比4.6%増加となりましたが、行政コストに占める一般財源の割合は、前年比3.9%減少しています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>恐竜研究の最新成果を展示するとともに、毎年テーマを定め、海外からの化石を初めとした貴重な標本を一同に展示する特別展を開催しています。</p> <p>【H20予算額:約64百万円】</p> <p>白亜紀前期の手取層群の総合的な古環境の解明と復元を行うため、平成19年度より第3次恐竜化石発掘調査を行っております。</p> <p>【H20予算額:約37百万円】</p> <p>東アジアにおける恐竜研究の拠点化と恐竜ブランドを確立するため、タイなど諸外国との共同による恐竜化石発掘調査を行うとともに、波及効果の高い首都圏を中心としたPR活動を進めます。</p> <p>【H20予算額:約32百万円】</p>
今後の課題	<p>入館者数は増加しているが、更なる増加をめざすため、恐竜化石発掘調査等の調査研究の実施やPR活動の実施などが必要となっています。</p>
今後の事業方針 取り組み内容	<p>世界に誇れる博物館の実現を図るため、東アジアにおける恐竜研究の拠点化を目指すとともに本県の恐竜ブランドを確立させるため、多くの入館者でにぎわう博物館づくりを目指します。</p> <p>&lt;東アジアにおける恐竜研究の拠点化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白亜紀前期の手取層群の総合的な古環境の解明と復元を行うため、第3次恐竜化石発掘調査を行います。</li> <li>・国際的な恐竜研究拠点化を目指すため、タイなど諸外国との共同による恐竜化石発掘調査を行います。</li> <li>・海外および国内と連携し、展示の連携や研究者の交流を行います。</li> </ul> <p>&lt;にぎわう博物館づくり&gt;</p> <p>(魅力的で多彩なメニュー、サービスの提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示内容の充実や魅力的なテーマに沿った特別展を開催していきます。</li> <li>・「博物館セミナー」、「自然教室」の体系化および企業との連携を図っていきます。</li> </ul> <p>(九頭川流域一体での魅力の創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくい恐竜渓谷」(仮称) &lt;野外博物館&gt;の整備に向けた検討を進めていきます。</li> <li>・恐竜博物館の街道への大型恐竜ミニチュア設置やえちぜん鉄道駅への恐竜博士ミニチュア設置により、入館者への期待度アップを図っていきます。</li> </ul> <p>(積極的な広報、宣伝の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・波及効果の高い首都圏を中心としたPR活動を積極的に進めていきます。</li> <li>・企業と連携して、恐竜博物館を核とした、また題材としたツアーの企画や商品の開発を進めていきます。</li> <li>・企業と連携して、特別展前売券の販売を進めていきます。</li> </ul>

県民1人あたりのコスト負担の状況(円)



人口100万人あたり入館者数比較(H19)  
(自然史系公立博物館)

